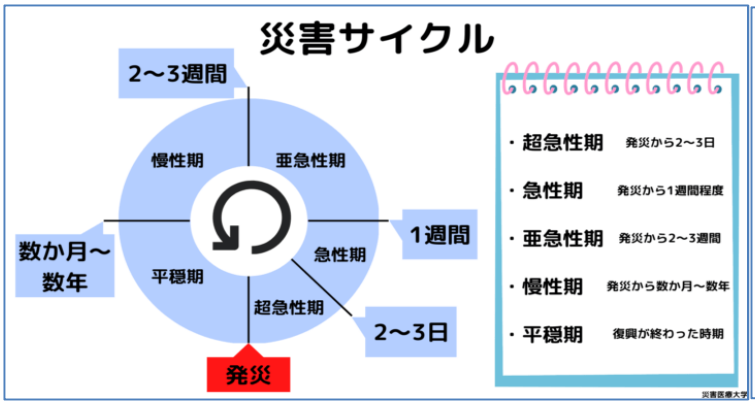
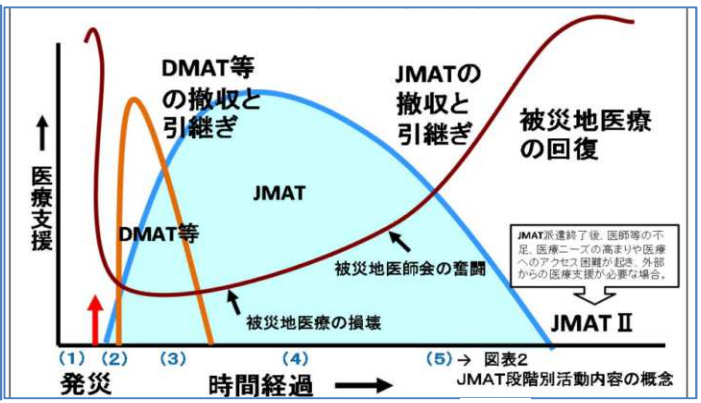
認定看護師だより

2024年1月号　Vol.115

2024年（令和6年）1月1日16時10分　日本の石川県能登半島にある鳳珠郡穴水町の北東42 kmを震央として地震が発生しました。地震の規模は気象庁の発表によるとマグニチュード7.6、震源の深さは16 km（いずれも暫定値）とされています。鹿児島市医師会病院でも主任会が中心となり、病棟での災害訓練の実施が定例化してきています。今回は災害支援のチームによる連携について紹介します。

災害サイクルの概念は、災害発生から復興、平時となり再び災害が発生するという時間的経過をサイクルとして捉えること。災害サイクルを基盤に被災者のニーズの変化に応じて、医療支援の内容も変化していきます。
災害に影響を受けない時期、また復興が終わった時期こそ、減災や防災に向けて取り組むべき時期といえます。
能登半島地震発生から2ヶ月足らず、現在も医療支援チームによる被災地支援が継続されています。





災害医療派遣チーム（DMAT）は、**発災から48時間以内**に活動できるように訓練されたチームのことを言い、医師・看護師・業務調整員の4名～5名で構成されています。厚生労働省の管轄下にあり、被災地の都道府県からの派遣要請により、出動します。
日本医師会災害医療チーム（JMAT）とは、医師・看護職・事務職員による基本4人で構成されたチームで活動の意思があれば事前登録なしで活動できます。被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援することを目的としています。日本医師会が被災地外の都道府県医師会ごとにチームを編成し、被災地の医師会からの要請で派遣を行います。
上記以外にも、被災地支援には**災害派遣精神医療チーム（DPAT）、災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）、福祉・心理的支援チーム（DWAT）**などが連携を図り医療ニーズに応じた支援するシステムができています。

1月28日から2月1日までの期間、当院と鹿児島大学病院の混成JMATが石川県で活躍されました。高い志を持った隊員らは、被災者のためにと、夜が明ける前に出動し、睡眠もそこそこに活動したと聞いています。無事帰還した勇姿を目にした時は、ホッとしたとともに頼もしく、そして誇らしい気持ちが込み上げました。災害が発生するとライフラインが整っていることのありがたさや当たり前の日常が恵まれていることを実感します。今回の災害を契機に自分自身の災害対策を充実させてはいかがでしょうか。最後に震災の体験を忘れないために、震災遺構を紹介します。

～震災遺構～熊本南阿蘇村の旧東海大阿蘇キャンパス～

旧東海大阿蘇キャンパスの活断層や損傷した建物

南阿蘇のシンボル
考古学者ロビン

熊本の南阿蘇まで足を伸ばすと被災した旧東海大学阿蘇キャンパスが震災遺構として保存されています。
熊本県は、地震直後の4月17日には熊本県出身の漫画家・尾田栄一郎氏から「必ず助けに行く」という心温まるメッセージが届き、このメッセージを復興に向かう熊本の「原動力」としていくため、漫画『ONE PIECE』と熊本県が連携した『ONE PIECE 熊本復興プロジェクト』が立ち上がったそうです。

担当：救急看護認定看護師　川畑さとみ　Kagoshima Medical Association Hospital